

LPガスCP速報(2025年5月積)

1. 5月積みサウジアラムコLPガスCP (4月30日発表)

プロパン **610** ドル (前月比 -5 ドル)

ブタン **590** ドル (前月比 -15 ドル)

① LPガスパット市況等

米中貿易戦争は、原油、LPガス市場をも巻き込み混乱に拍車をかけた。トランプ関税に対し中国は米国品に34%の報復関税を課すことを発表(5月13日以前到着は免税)、中国は手当てを中東等にシフトするのは必至。世界経済見通しが引き下げられ、需要減退懸念から原油、LPガス市況は急落したが、サウジは国内石化用需要で市況を下支え、中国の非米国産への引き合いも強まり、CP先物市況は反発、第4週5月限はプロパン590 ドル 、ブタン565 ドル まで戻した。極東CFR市況は、第3週で前週比40 ドル 反騰のプロパン520 ドル 、第4週も続伸した。

米国市場をみると、今冬のプロパン需要は低気温で2007年以来の過去最高水準、輸出も記録的高水準で推移し、2017年以来の在庫取り崩しとなった(グラフ②参照)。全米プロパン在庫水準は5年平均レンジの中央下方に収まっているものの前年同期比では8週連続で前年割れ。モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況の急落を受けて上旬に365 ドル まで下げたが、天然ガス市況が反発すると反転、最終週に495 ドル どころまで戻した。月間平均では前月比14 ドル 続落の440 ドル ／トッどころ(グラフ①参照)。

フレート市況は波乱な展開。米中貿易戦争の成り行きに戦々恐々となるなか。第2週にカナダ積みカーゴが急落したのを契機に中東、米国市況ともに急落した。イースター休暇を前に傭船需要が増加し市況を戻したが、米国は中国関連船の寄港課税を発表、中国向け米国積みはキャンセルも選択肢となった。米国～極東は100 ドル どころで推移。中東市場は、船舶需給が一時タイト化も、インド勢の揚げ地での滞船日数が減少傾向で今後は弱含みか。

ナフサ市況は3ヶ月連続の大幅下げ、月間平均は前月比62 ドル 急落の577 ドル ／トッどころ。原油市況の軟化と石化需要の低迷を受けた。ブタン石化需要も振るわず。

バンカーオイルをみると、原油市況に連れ安、シンガポールIFO380は続落し、月間平均で前月比31 ドル 下落の440 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)も続落、前月比30 ドル 下落の618 ドル どころ、ガスオイル・C重油との格差は変わらず。

5月CPは前年同月比プロパン20 ドル 、同ブタン5 ドル の上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン5、ブタン4ポイント上昇、前年同月比ではプロパン26ポイント、ブタン21ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東ー日本)	60	40	50	50	50
CP先物指標:P	590	560	580	590	580
CP先物指標:B	575	535	560	565	559

② 原油市況等

4月の原油市況はトランプ関税に翻弄された。WTIは月初の71 ドル 台から8日には59.58 ドル と4年ぶりの安値に値を沈めた。米中貿易戦争拡大による世界的景気後退、エネルギー需要減退懸念が高まった。また、OPECプラスの自主減産縮小は4月から実施、5月以降も追加の生産拡大(41.1万b/d)が合意され、市況の重しとなった。一方、ロシアのウクライナキーウ攻撃で米政権はロシアへの追加制裁を示唆、先物市場では、プロンプトスプレッド(期近2限月)の逆ザヤが拡大、トレーダーはショートポジションを手仕舞っている。地政学リスクは、イラン核協議に進展がみられたものの、中東、ロシア情勢の不確実性は増し、先行きは不透明なまま。貿易戦争により世界経済見通しが引き下げられ、金融市場のセンチメントが悪化、原油市場にも大きな影を落としている。

○4月積みアラビアン・ライト(4月1～29日までの想定)は71.65 ドル (前月比 -4.75 ドル)

熱量等価AL100% プロパン 587.46 ドル ／トッ ブタン 579.40 ドル ／トッ

AL比 プロパン 103.84% ブタン 101.83%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

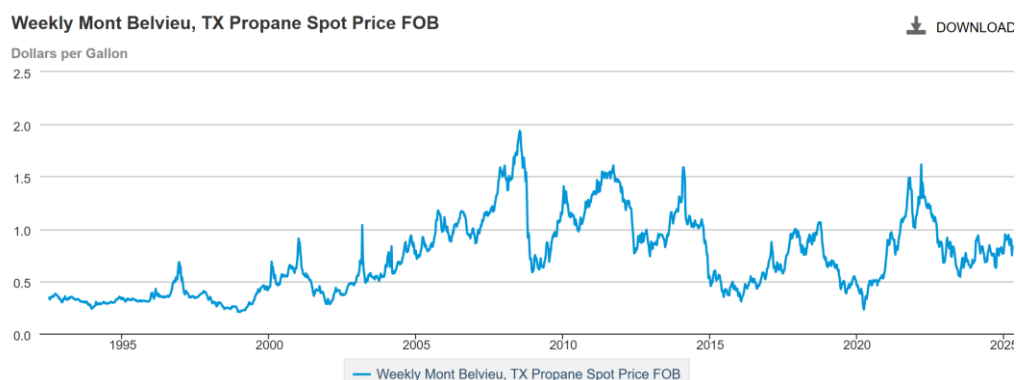
2. 2025年5月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P 円建 C F R	B 円建 C F R	P 前月比	B 前月比
4 月 月 間	145.49	94,700	95,000	-4,300	-4,500

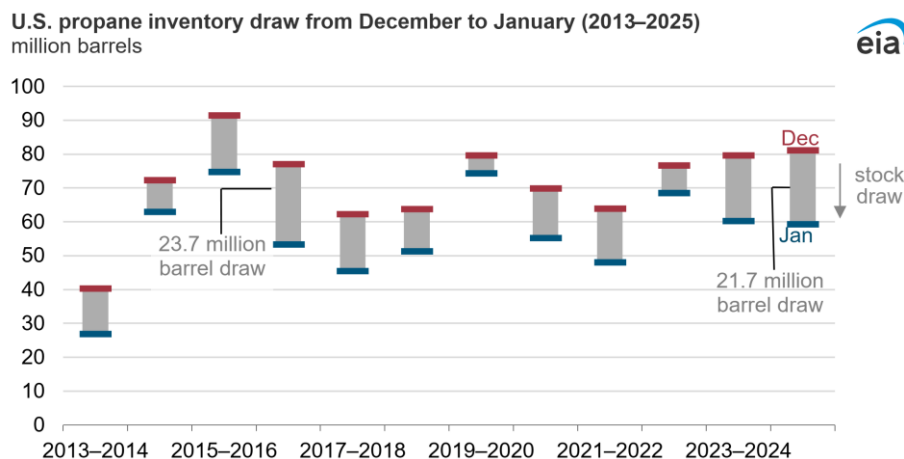
* T T S 平均等について、上記は4月1～30日までのT T S 平均。C P は前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はC P 70%、MB 30%で算定。C F R コストは中東・北米フレートを含むC F R コストを表示。C F R コストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは4月28日までの価格を基にE I N で試算（440ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e b サイトを参照。

① 米国プロパンスポット価格推移



② 米プロパン需要期在庫取り崩し推移



③ 米プロパン輸出量推移



出典：EIA